

令和7年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第2回夢ファンド部会 記録

日時：令和7年11月12日（水）

午後2時00分～午後4時00分

場所：刈谷市役所 101A 会議室

出席者

団体名・役職等	氏名
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	石田 彰宏
一般公募	戸田 広二
刈谷市民ボランティア活動センター	米田 正寛

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- (1) 定刻になり、協働推進係長が開会を宣した。
 - (2) 部会長挨拶
- ・まちづくり活動支援事業のうち、申請額が5万円超20万円以下の申請内容について審議を行う。
刈谷の市民やまちづくりにとってプラスとなるよう建設的な議論をお願いしたい。

2. 議題

(1) かりや夢ファンド補助金公開審査会について

- 資料1-1、1-2を提示し、公開審査会の進行について事務局が説明
(資料差し替え)

- ・まちづくり活動支援事業の1申請団体から、11月11日付けで辞退の申し出があった。メンバーの体調不良により、事業を進めることが困難となったことが理由。【資料1-4】を除き、申請件数を5件に訂正した資料に差し替えている。

(公開審査会)

- ・1月24日(土)12時30分~16時45分に刈谷市民ボランティア活動センター(以下、ボラセン)にて開催予定。審議は刈谷市社会教育センター301研修室にて行う。
- ・審査員は12時までに301研修室に集合。進行説明の後、審査会場のボラセンに移動する。

(申請状況)

- ・7月15日(火)~9月30日(火)を募集期間とし、まちづくり活動支援事業6件の申請を受理。うち1件が辞退となった。NPO法人設立支援事業の申請はなかった。

(プレゼンテーションと質疑)

- ・最初に質問する委員のみ本日の審議で決定する。二人目以降は自由なので、積極的な質問をお願いしたい。
- ・審査員の質疑の終了もしくは質疑の時間が残り1分となった時点で、来場者の質問に移る。
- ・本日の審議で出た質問や意見を団体に通知し、内容をふまえたプレゼンテーションを行う。

(採点とコメント)

- ・審査シートのコメントは後日団体宛てに送付するため、温かい応援メッセージをお願いしたい。
- ・公開審査会の1週間前より、市民交流センターロビーに申請団体のPRパネルを設置予定。審査の参考としてほしい。

(会場投票)

- ・一般の参加者は、各団体によるプレゼンテーションに基づき、優れていると思う事業を2つ選んで投票が可能。同一事業を2つ選んだ場合や1つしか記入がない場合は無効票となる。

(審議)

- ・総合得点の高い順から確認作業を行い、総合的な評価や審査員間で評価の差が大きい項目について確認する。条件を付けるべき内容がある場合は、指摘するポイントについて整理する。
- ・基準点(まちづくり活動支援事業12.5点)に満たない事業は不採択となる。

(結果発表)

- ・プレゼンテーション会場にて集計結果を発表の後、熊澤審査委員長から講評をいただく。
- ・条件付き採択事業については、フォローアップ調査を実施。条件を満たしているかどうか審査委員長と協議し、3月の第3回推進委員会にて採択の可否を判断する。

■質問・意見交換

委員：従来から大きな変更点はあるか。

事務局：申請団体が2つを超えたため、今年度は会場投票を実施する。

部会長：会場投票は2つ以上丸がつかなければ無効となる。

(2) 申請書類の確認について

【資料1-3、1-4、募集の手引き】に基づき事務局より説明を行った後、事前質問に向けた意見交換を行った。

- ・まちづくり活動支援事業の趣旨は、市民団体などが、継続して自主的に行う公益的なまちづくり活動の手助けとなるように支援するものである。

- まちづくり活動支援事業は、申請5件、申請金額901,000円、昨年度に比べ、団体・申請額ともに増加した。
- 本日の質問・意見を取りまとめて団体に送付し、公開審査会ではその内容を踏まえてプレゼンテーションをしていただく。

■意見交換を受けて、質疑内容を以下の通り確認した。

■まちづくり活動支援事業

団体名	事業名	質問等 ※【】内は事務局から回答、□内は委員所感
重原 歴史を学ぶ会	重原歴史本を通して地元愛を育む	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> • 冊子の様式（ページ数やサイズ、カラー／白黒等）をご説明ください。 • 印刷経費は見積を取られていますか。印刷会社はどちらを予定でしょうか。 • 冊子販売について、販売額と印刷経費をどのように設定したか、経緯をご説明ください（原価割れの価格である800円とした考え方について）。 • 主な読書層はどのくらいの年代を想定していますか。 〔大人用・子ども用と分けたほうが有効→今年は子ども向け冊子に集中するなど、制作を複数年度の計画で考えてみてはいかがでしょうか。〕 • イラスト謝金など、印刷製本費の他に必要な費用はありませんか。 〔対象が小学生低学年から専門家まで幅広いため、ふりがなやイラストの有無など内容面の検討も必要ではないか。予算の具体化を。〕 • 仮に販売が進まなかった場合、資金繰りは問題ありませんか。 <p>▼プレゼンテーションにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> • メンバーの専門性や顔ぶれをもって、今回の事業にどのように取り組まれるか、ご紹介ください。 【読み聞かせや歴史に詳しい人がメンバーにいる。】 • 冊子体だけでなく、ウェブを活用する手段は検討されましたか。 〔ウェブなども活用することで、費用を抑えつつ広く周知できる可能性があるのではないか。〕 • 地元住民への配布は予定していますか。事前に注文を受付けますか。 【元刈谷地区では事前に購入希望調査をして販売数を決めていた。】
刈谷発達仲間会	大人の発達障がい者支援 落語家【柳家花緑】師匠の講演落語会	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会場が小ホールに変わる場合、①会場使用料の金額および支出内容に変更はありますか。②事業収入の内訳（入場料および入場者数）に変更はありますか。 【小ホール（約300席）を希望だが、予約開始が半年前のため、大ホール（700席）を仮押さえしている。】 【参加費1,000円超えると会場費が倍になる。】 <p>▼プレゼンテーションにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前回集客が少なかった理由をどのように評価・改善していますか。「大人の発達障がい」についての市民の関心度をどのように認識されていますか。それらを踏まえた集客力を高める工夫について、広報時期以外に考えられていますか。 〔前回の行動計画表を見ると、広報の開始時期の他にも課題が考えられる。市民に「面白そう」と思ってもらえる工夫（チラシや他の手法）が必要ではないか。〕 〔「生きづらさを感じている方へ」というような呼びかけをすると、当事者に気付いてもらいやすいかもしれない。〕

		<p>【前はアンケートで参加者の声は収集している。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの発達障がい」と「大人の発達障がい」の問題のつながりをどのように考えていますか。 ・子どもの発達障がい支援団体とつながりはありますか。例えば、広報協力など連携して取り組まれていることはありますか。
刈谷防災ボランティア	防災福祉フェア～地域の防災力を高めるために～	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が行う啓発事業とのすみわけや、今回事業の特色・意義について説明してください。市内で防災に関する取組が多数ある中、広域性があるからこその特色をどのように考えていますか。 ・手順書の仕様について「40円×35ページ×100部」とありますが、どのように制作されますか。製本ではなくコピーを選んだ理由はありますか。 〔予算規模を考えると製本にしても大きな差はないため、製本の方が良いのではないか。〕 ・チラシの配布対象や配布方法を教えてください。そのうえで、100部で十分に周知できると判断された理由は何ですか。 <p>▼プレゼンテーションにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの対象者は防災リーダー等の知識経験のある層か、一般市民か、どのような方を想定していますか。一般市民対象の場合、災害を自分事と捉えていない層でも気軽に立ち寄れるイベントづくりにどのような工夫をされていますか。 〔講演と体験だけでは足を運びにくいのではないか。〕 ・防災福祉をテーマとする今回のイベントにおいて、この講師を選ばれた理由は何ですか。 ・地域の防災力を高めるために、「地域のつながり」を育むことのヒントとなるような内容は想定されていますか。
特定非営利活動法人ぷらっとほーむ	お仕事見学、体験プロジェクト	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加対象者は何人を想定されていますか（宿泊者、日帰り見学者の内訳も含む）。参加者の負担額はありますか。 ・参加人数が想定より増減がある場合、費用の増減はありますか。補助申請額の上限を活かして、より多くの参加者を受け入れる方向での検討はされましたか。 ・自組織の施設を利用していない引きこもり状態にある方に対して、参加につなげるための声かけの方法や工夫には、どのようなものがありますか。 〔自施設の利用者・関係者のみの場合、公益性の観点から評価が低くなる。〕 <p>▼プレゼンテーションにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東栄町に行く」ことが、引きこもり状態にある方にとって、“一歩外に出る”ことについてどのような効果があると考えられますか。 ・東栄町で行った経験を今後刈谷市でどう活かしていきますか。土地や自然環境、立地条件など環境の違いをふまえた上で、刈谷市内の事業所で再現するにはどんな調整が必要だと考えますか。 ・前回の取組（R7.7月）を通じて得られた課題や評価、参加者の声などを踏まえ今回の事業でどのように活かしていく予定ですか。

<p>富士見町自主防災会</p>	<p>みんなで描こう！つながる防災・ひろがる地域力～防災倉庫を地域をつなぐシンボルへ～</p>	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫のペイント作業については住民が担いますか。専門家の助言を受けたうえで住民が実施する場合、技術的な負担や安全面への配慮はどのように検討されていますか。 ・ペイントは 10 月が適時期と思いますが、時期についていかがお考えですか。 〔夏はペンキが乾きにくく、冬はすぐ乾いてしまうため、作業が困難となる。〕 ・3年後の塗り直しに必要な費用はどのように想定されていますか。また、その費用はどのような手段（例：地域イベントの収益など）で賄う予定ですか。 ・「令和 8 年度 9 月：ペイント見積もり決定」とあるが、再見積もりを行うという認識で良いか。 ・昨年度の財政状況に対しペイントに費用を要し、他の活動が苦しくなりませんか？ <p>▼プレゼンテーションにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫のペイントを“先駆的な取り組み”と位置づける理由について、どのような考えがありますか。また、他地域での類似事例や参考になる取り組みは調べられましたか。 ・事業者（ペンキ業者含め）からの協力を得ることは考えていますか。 〔事業者と関係を築き、運営面で協力を得るなどの工夫ができれば、より効果的な活用ができるのではないか。〕
------------------	---	---

審議内容

1 重原 歴史を学ぶ会／重原歴史本を通して地元愛を育む／申請金額 200,000 円

（冊子制作費用の見積）

委員：予算内訳は印刷製本費のみでよいか。冊子制作だけでなく、ウェブなども活用することで費用を抑えつつ広く周知できる可能性がある。事業目的は評価できるので、団体の自主性を尊重した上で、より効果的な方法を検討いただけるとよい。

委員：今回の事業では冊子を作るまでが対象か。販売やウォークラリー等も予定されているが、費用の計上はない。売上が上がるまで自己負担となる点や、売り切れなかった場合は収支が成り立つかどうか懸念される。

事務局：予算書上、一つの費目のみであることは問題ない。費用の計上に漏れはないことは団体に確認を取っている。

委員：過去の事業で、企画時に見積を取っておらず、費用が不明確だった事例があった。今回は印刷会社等から概算見積を取っているのか。冊子のサイズやページ数の想定が不明であること、対象が小学校低学年から専門家まで幅広いため、ふりがなやイラストの有無など内容面の検討も必要ではないか。イラストを外注する場合は追加費用が発生する可能性もあるため、予算については当日までに再検討された方がよい。

（冊子の印刷費用）

委員：印刷費の参考として、500部・40ページ・フルカラーの冊子を約6万4000円で制作できるところもある。ただしこの場合、デザインや原稿作成は自力でやる必要がある。あらためて冊子のページ数や内容を確認して、見積金額の妥当性を判断したい。

委員：おそらく地元の印刷会社に相談しているのだろう。デザインは基本的に自分たちで行う必要があるが、周囲の協力を得られれば費用を抑えられるかもしれない。条件を整えば地元の業者に依頼できると理想的だと考える。

事務局：元刈谷の冊子の場合、A4・180ページ、1冊600円で販売され、学校や図書館等に寄贈された。ウェブ活用も有効だが、実物を手に取れる形で提供することも重視されているのではないか。

（冊子の配布・購入の流れ）

委員：冊子を重原地区の方に配る予定はあるか。地域のことはよく分かっている必要ないと思われるかもしれないが。

事務局：元刈谷地区で歴史本を制作された際の事例では、回覧板で購入希望の事前調査をして印刷部数の目安としていた。あくまで地元住民全員に配布するのではなく、希望者が購入する形であった。

委員：今回もそのようなプロセスを予定した内容ということか。

事務局：その点は団体に確認が必要であるが、先行地区を参考に組み込まれている点は確認している。市内では泉田地区、元刈谷地区に続き3地区目と認識している。

（読者の対象年齢）

委員：横の広がりが生まれて素晴らしいが、小学校低学年から大人までを対象として1冊の冊子にまとめるのであれば、どんな内容を予定しているか確認したい。

委員：子ども向けの内容と専門的な内容が1冊にまとめられているなら、対象別に冊子を分けた方がよいと考える。子どもに知ってほしい地域の歴史を伝える内容にし、専門的な内容は別冊にすることで、受け取る側にとっても分かりやすく、役立つものになると考えられる。費用は増える可能性があるが、その方が価値のある取り組みになるだろう。

委員：冊子は「一般向け」「子ども向け」に分けることで、読み聞かせや意見交換会などの場面でも対象に応じて手に取りやすくなり、小中学校への寄贈もしやすくなる。

委員：今年度は子ども向け冊子に集中し、来年度以降に専門的な内容を加えるなど、3年程度の計画で段階的に進めてはどうか。子ども向け冊子は言葉選びやイラスト、編集に時間がかかるため、質の高いものを作るには1年くらいは必要である。

委員：3年計画は良いと思うが、事業計画では4月に発注が予定されており、すでに準備を進められているのではないかと。

事務局：制作に着手していると確認している。

委員：小学生と中学生でも適する内容は相当異なる。

（冊子制作の専門性／販売額の設定）

部長：冊子制作の専門性はメンバーにあるか。

事務局：メンバーの中に読み聞かせや歴史に詳しい人がおり、その方々が中心となって制作すると聞いている。

委員：売価が1,200円でも購入希望者はいると考えられるため、補助金が採択されなくても印刷製本費のみで自費運営は可能だろう。ただし、内容のボリュームや詳細により判断が変わるため、内容の精査が大切である。今後同様の申請がある場合に備え、安易に販売価格を設定して寄贈分で調整するような対応は避けた方がよいと考える。

委員：プレゼンテーションではメンバーの専門性や人材を活かし、どのように制作を進めるか紹介していただきたい。

委員：冊子の価格設定について、1,500円でも価値があれば購入する人はいる。価格を上げて収益分で子ども向け冊子を制作する方が効果的ではないか。原価割れで赤字前提の価格設定に疑問が残る。知ってもらうために価格を抑える意図は理解できるが、販売としての妥当性に課題がある。

部会長：800円という価格が購入者の感覚から逆算されたものなのか、経費から算出されたものなのか不明であり、価格差によって購買意欲が大きく変わるとは考えにくい。価格設定の経緯をご説明いただけるとよい。

2 刈谷発達仲間の会／大人の発達障がい者支援 落語家【柳家花緑】師匠の講演落語会

／申請金額 200,000円

（集客の課題と対策）

委員：前はスタートが遅れて参加者が思うように集まらなかった反省から、今回は早く動かれている。700席のホールで全席埋まらない計算になっているのが心配される。

事務局：小ホール（約300席）を希望しているが、施設の予約開始が半年前からのため現在は予約できず、大ホール（700席）を仮押さえしている。小ホールが確保できればそちらで開催したい意向と確認している。

委員：会場が変わると事業収入は一人千円で300席なら最大30万円となる。施設利用に係る支出はいくらになるか。

事務局：設備等は除き、大ホールの単純な利用料が9万9千円、小ホールは3万5200円なので、半分以上となる。

委員：250人程の参加で収支が釣り合う。

事務局：前はスタートの遅れに加え、チケットをウェブ販売に限っていた。今回は窓口と併用した販売に改善された。

（「子どもの発達障がい／大人の発達障がい」関心度とつながり）

委員：子どもの発達障がいは学校で対応される一方で、大人の発達障がいは市民の認知がまだ十分ではないため、大人にも発達障がいがあることを広く知ってもらいたいという強い思いがあるのではないか。

委員：前回の行動計画表を見ると、広報開始から時間が経っても集客が伸びず、PR強化後も反応がなかったことから、広報の開始時期の他にも課題が考えられるのではないか。運営側の「多くの人に聞いてほしい」という思いと、当事者との感覚にズレがあった可能性もあり、市民に「面白そう」と思ってもらえるような工夫（チラシや他の手法）が必要ではないか。集客方法について改めて検討する余地があるのではないか。

部会長：イベントに参加しなかった市民にも問題意識が伝わるかどうかという観点から、イベント後の評価が大切である。

委員：参加すると満足度が高いだろうが、参加につながるまでに課題がある。

委員：対象は大人とあるが、申請書の内容は子どもの情報も多く含まれていることから、子ども時代から大人への支援のつながりを意識していると考えられる。18歳までは行政の支援があるが、以降は支援が途切れる現状があり、大人の受け皿が少ないことに焦点を当てている点に意義がある。子どもの頃からの継続的な支援は重要だと考える。

事務局：自分の子どもの障がいに悩んでいる親もサポートしたいという思いである。

委員：発達障がいの診断を受けていないが、職場での人間関係や業務に悩んでいる人が、落語を通じ

て発達障がいへの関心を持つきっかけになる可能性がある。一方で、当事者以外の関心が薄く、それが参加者数に表れていると考えられる。

部会長：「生きづらさを感じている方へ」といった呼びかけや、マーケティングの専門家の助言を得ることで、参加につながる期待ができるかもしれない。

（同分野の活動団体との連携）

委員：市内には「らっこちゃん親の会」や「ぎふと」など、障害があるお子さんを支援する団体がある。そうした団体と協働しているかどうかは気になるところであり、年代別に活動する事業所もあるため、積極的に連携を図るとよい。

事務局：らっこちゃん親の会はかりや夢ファンド補助金の採択実績がある。

委員：行動計画表のアンケートに「収益赤字幅が心配」との記載があり、前回は赤字だった可能性がある。今回は参加費を 1,000 円に下げているが、仮に 300 人参加しても収入は 30 万円で、前回の 2,000 円・170 人参加の方が収益は高かった。今回の価格設定の意図を確認したい。

事務局：入場料が 1,000 円を超えると会場使用料が倍になる。

委員：会場費の違いを踏まえると、1,000 円の方が全体の収益性が高くなるということと理解した。

3 刈谷防災ボランティア／防災福祉フェア～地域の防災力を高めるために～

／申請金額 200,000 円

（市域で取り組む特色）

委員：市主催の防災講演会と連携はあるか。

事務局：市主催の講演会は別途予定されているが、日々の活動は情報共有されており、協働関係にある。地域の自主防災会の取組にも危機管理課ならびに刈谷防災ボランティアが関わっているところが多いと聞いている。

委員：地域に防災のニーズがあるからこそ、今回のような活動は意義がある。既存の活動が多数取り組まれる中で、このイベントの必要性とは？市内で防災にかかる取組はどの程度予定されているものか。

事務局：今回の申請は、特定の地区というより市全体を対象にしたイベントをイメージしている。市内には大小さまざまな活動がある。毎年 9 月 1 日の防災の日を中心に、自治会を通じた防災訓練が少なくとも年 1 回は実施されている。加えて、地域独自の訓練も行われており、地域によっては防災運動会のような、楽しみながら学べる形式のイベントも開催されている。

委員：規模を様々に何度も取り組まれることは良い。

（手順書の作成・広報手段）

委員：手順書を作成すること自体は良い取り組みだが、予算項目が「コピー代」となっている点気になる。予算規模を考えると製本にしても大きな差はなく、コピーでは見栄えが劣る可能性があるため、製本の方が望ましい。また、チラシの部数が 100 部では大規模イベントとしては少なく、1,000 部以上の配布が適切ではないか。

（参加対象者の想定／専門家・一般市民）

委員：地域の自主防災会などの防災関係団体向けの内容に感じられるが、本来は高齢者などの一般市民が日常の防災を学び、身近な対策に関心を持つことが理想である。目的には「一般市民向け」と記載されているが、内容は体験型が中心で、実際の対象とのズレがあるようにも見受けられる。

委員：「福祉」の観点、介護や障がい、高齢者やインクルーシブといった視点は少ないように感じた。

- 委員：防災も大きくとらえれば福祉の枠組みである。「防災力」という言葉があるが、地域のつながりを積極的に築いている地区の事例紹介など、つながりづくりのヒントとなる内容があるとよい。近年は自治会や子ども会への参加が減少しており、そうした中で地域のつながりを育むことが防災力の向上にとって非常に重要である。
- 委員：広域的な規模に応じて焦点を調整する必要があるかもしれない。ガラスの飛散防止などは地域の会でも実施されている可能性があり、広域的な視点が活かされるとよい。
- 部会長：現状では対象・目的・内容の範囲が広く、焦点が曖昧な印象がある。専門性に特化するか、災害を自分事と捉えていない層へのアプローチに絞るなど、方向性を明確にするとよい。
- 委員：方向性については、審査会で説明いただくとよい。子ども連れの家族向けであれば、「今日行くところがないから行ってみよう」と思えるような、気軽に立ち寄れる体験型イベントの工夫が必要。楽しさや親しみやすさを重視した取組がよい。
- 委員：普段から防災活動に熱心な人を対象にするのか、それともこれまで防災イベントに参加したことのない親子連れなどを呼び込むのか、ターゲットを明確にする必要がある。講演と体験だけでは足を運びにくいかもしれない。

4 特定非営利活動法人ぷらっとほーむ／お仕事見学、体験プロジェクト

／申請金額 101,000 円

（東栄町の取組と刈谷市への効果）

委員：東栄町とのつながりは？

事務局：東栄町でのコーディネート役の方が刈谷市から移住された方で、団体と接点があったと聞いている。

委員：東栄町は、近所に新しく引っ越して来る人がいると野菜を持っていくなど、人とのつながりを大切にしている土地柄とのこと。

委員：東栄町での取組は素晴らしく、人とのつながりを重視する文化を持つ活動を刈谷市に移そうとする趣旨は理解できるが、土地や自然環境、立地条件などを踏まえると、そのまま真似するのは難しい。人間性は育める可能性があるが、資料からどのように実現するのかが明確に読み取れなかった。

事務局：参加者が多様な働き方や生き方に触れ、生活スタイルの違いを知ることが目的。対象は引きこもりの方であり、まず外に出るきっかけを作り、その後は市内の事業所で仕事体験へとつなげていく流れが想定される。

（対象者の想定と呼びかけ方）

委員：対象参加者数の想定は？

事務局：参加者数に応じて東栄町の受け入れ体制との調整が必要となると説明があるが、具体的な人数については記載がない。

委員：旅費として電車代や宿泊費が予算に含まれているが、補助金と自己資金のみ。参加者の負担金は収益には計上されていないが、参加者の増減にどう対応するかは確認が必要である。多くの人数に対応できるなら補助申請額を増やしてもよいのではないか。

委員：対象となる引きこもりの方への声掛けはどのようにするか。家族を通じてか。自分で「行ってみよう」と思うきっかけをどのように設けるか。

委員：団体が持っている事業所内の利用者のみを対象とするのであれば、公益性が低くなる懸念がある。生きづらさを抱える方への具体的なアプローチ方法が現段階では弱く、2～3 人の参加で

は事業の意義が問われる。対象者数の見込みを明確にしていただけるとよい。

委員：対象者の実質的な年齢層や、普段関わっている相談者の人数、過去に宿泊を伴う企画を実施した実績などが明示されると、事業の背景がより理解しやすくなる。

部会長：今年初めて実施し、好評だったため補助金を活用して継続・拡大を図る意図と理解した。

委員：前回の課題や参加者の感想なども資料に含めることで、計画の説得力が増すのではないか。

部会長：宿泊者と日帰りの見学者、それぞれ何人か説明いただけるとよい。体験が財産になり、人生が変わるきっかけになるという意義は大きく、この補助金の趣旨には合っていると感じるが、公益性とのバランスが課題となる。プレゼンテーションではそういった観点から説明いただきたい。

5 富士見町自主防災会／みんなで描こう！つながる防災・ひろがる地域力～防災倉庫を地域をつなぐシンボルへ～／申請金額 200,000 円

委員：防災倉庫は市が所有するものか。

事務局：自主防災会が自主的に設置した倉庫である。市はその設置費用や内部の資機材購入費に対して補助金を交付している。富士見町の自主防災会は古くから活動が活発である。自主防災会は23自治会それぞれにあり、町や組単位でも自主防災会が組織されているところもある。

委員：富士見町の取組を見て、他の地区から申請される可能性は考えられるか。

事務局：考え方はそれぞれだろう。個人的には、今回の取り組みを契機として防災資材の充実を図るのも一案ではないかと考える。公園に人が集まるきっかけを作ることは、防災だけでなく顔の見える関係づくりにもつながるため有意義である。

委員：今回の取り組みが前例となり、他の自主防災会から同様の申請が出てきた場合の対応についてはあらかじめ検討しておけるとよい。

（作業の技術・維持管理の費用確保）

委員：1点目、専門家の意見を参考にするとはいえ、実際にペイント作業を行うのが素人であることに対する技術的な安全性や品質への懸念。2点目は、事業を3年に1回実施する計画とのことだが、今回は補助金があるものの、今後の財源確保について不透明であり、防災イベントなどで収益を上げる計画があるのかどうか。

委員：技術的な話であるが、一度描いたものを消してからでないとな下の絵が透けるため、大変な作業になるだろう。

委員：みんなで素敵なカラフルなものを作るのはとても良いことだが、数年後に塗装が剥がれて見た目が悪くなってしまうと、かえって残念な印象を与えてしまいかねない。

委員：長期的な維持管理や素材の耐久性にも配慮が必要である。スケジュールに関しては、ペンキ塗りの時期として遅い。10月がよいが、長雨があるので調整が難しい。

（ペイント費用）

委員：「令和8年度9月：ペイント見積もり決定」とあるが、これは再見積もりを行うという理解でよいのか確認したい。見積額が変更になる可能性はあるか。

事務局：これから決まっていくデザインを基に見積をとってこのタイミングで決定される。デザイン次第で金額が変わる可能性はある。

部会長：ペイントにかかる見積金額が変動する可能性を踏まえたデザイン条件（例：「何色以内」など）を設けるのかが気になる。

（先駆性の確認）

部会長：防災倉庫のペイントというユニークで先駆的な取組について、ペイントすることが先駆的なのかどうかというロジックを確認したい。

委員：防災倉庫をペイントした先事例の調査や、ヒアリングをして参考にしていただけるとよい。
(団体の組織規模にあった事業提案)

委員：趣旨はよいが、ペイントに予算の大半を使って他の活動ができなくなるのは、本来の目的からすると適切でない。ペイント代に消えてしまうのは惜しい。

委員：事業者と関係を築き、運営面で協力を得るなどの工夫ができれば、より効果的な活用ができるのではないかと。

事務局：企業による社会貢献で、公園の遊具の塗装を無償でやっていただいた事例もあるので、そういった良好な関係性を探す可能性もありうる。

(全体を通して)

部会長：夢ファンドのロゴは、防災倉庫や冊子に描く必要があるか。

事務局：成果物そのものでなくても、看板に記したり、お披露目イベントのチラシに載せることでもよい。

委員：ロゴを入れることは条件としてお伝えすればよい。PRに協力いただきましょう。

(2) まちづくり活動支援事業のプレゼンテーション順について

■公平性に配慮するため、部会長がくじによる抽選を行い、発表順を以下の通り決定した。

(1) 特定非営利活動法人ぷらっとほーむ
(2) 刈谷発達仲間の会
(3) 刈谷防災ボランティア
(4) 富士見町自主防災会
(5) 重原 歴史を学ぶ会

■その他、事務連絡

(公開審査会審査)

- ・公開審査会出席団体には、質問事項を団体へ通知し、プレゼンテーションに備えていただく。
- ・公開審査会での団体への質疑においては、温かい雰囲気の中で団体を育てる心でご発言いただきたい。

(部会長よりコメント)

- ・異文化理解の授業で、日本人は質問されると非難と受け取りやすい傾向があることを学んだ。これは幼少期から質問に慣れていない教育文化によるものであり、質問が批判的に感じられることがある。そのため、質問の場面では雰囲気を和らげるような笑顔で盛り上げていただきたい。

2. その他

(1) 第3回夢ファンド部会 (公開審査会)

令和8年1月24日(土) 12時00分集合 刈谷市社会教育センター3階 301 研修室
【公開審査会】12時30分～16時45分 刈谷市民ボランティア活動センター

(2) まちづくりびと補助金申請状況

- 10月末時点、3名より申請があり、事務局審査により採択した。
- 内容は2件「防災カレッジ」研修への参加、1件は読み聞かせ技術向上を目指した研修であった。